

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

2013. May Vol. 30

SASAKI

<http://www.sasaki-kk.co.jp>

INSIDE REPORT 01-04

総合歯科医院の機能を充実させ、
視覚的にも分かりやすい情報提供を重視

望月デンタルクリニック 院長 望月 一彦 先生



THE FRONT LINE 05-08

小児予防歯科を重視し、世界標準レベルの
ファミリーデンティストを目指して移転新築

福田歯科医院 院長 福田 健二 先生
副院長 福田 幹久 先生



DOCTOR'S TALK 09-11

医科用CTやクリーンルームの手術室を設置。
安心安全を考えた診療を追求する

シティデンタルオフィス 院長 山本 英貴 先生



INSIDE REPORT

望月デンタルクリニック



曲線が美しい外観



ゆったりとくつろげる待合室



パーティションで個室風にしたい広い診療室



カウンセリングルーム

総合歯科医院の機能を充実させ、 視覚的にも分かりやすい 情報提供を重視

望月デンタルクリニック 院長 望月 一彦 先生

長野県松本市にある「望月デンタルクリニック」は、
一般医療から先端医療まで対応できる総合歯科医院として研鑽を重ねてきた。
その意識を持つことになったきっかけとこれまでの歩みをうかがってみた。



望月 一彦 院長

松本での開業を目標に 幅広く一般診療を学ぶ

「望月デンタルクリニック」の開業は、2005年。望月一彦院長は、出身地である松本市での開業にこだわった。

「大学まで松本で過ごし、私自身、松本がとても好きでした。また、今までお世話になった方や地元の方々に社会貢献したいと考え、学生時代から松本での開業を考えていました」

開業の準備として、望月院長は、一般歯科を幅広く学ぶことを重視した。歯科治療は、総合病院と個人病院で処置が行われているが、圧倒的に多い個人病院のほとんどは、特定の分野の専門ではなく、一人の歯科医師がすべての領域を診ることになる。そこで、卒業後は、幅広く学ぶためにも、第一線で診療を行っている開業医のもとで勉強していこうと決めた。

望月院長は、複数の個人病院勤務を経て、経験を積んでいった。「勤務医はどこに勤めるかによってその後の人生が大きく変わります。大学で学んだことは一つ一つが点のようでつながりがよくわかりませんでした、私が勤務させていただいた歯科医院では治療のゴールまでのコンセプトが明確で、多くの専門的な知識や技術の点を線として結び付け、さらにそれを面にするようなレベルの高い医療が行われており、自分が学ばなくてはならないラーニングステージが明確にできました」と、勤務医時代を振り返る。

さらに、その歯科医院では、良好な治療結果の「longevity」の獲得を治療目標にしていた。これは、偶然得られるものではなく、的確な診査診断はもちろん、治療方針の決定、確定的治療、メンテナンスとの段階においてもきちんとコンセプトを持って臨んでいた。また、治療が長期にわたる方が多かったことから、患者との信頼関係を築いていく医院全体としての努力も勉強になったという。

開業から2年ほどの苦労の時期が 詳細な患者向け情報提供を生み出す

順調に発展してきた望月デンタルクリニックだが、開業から1、2年は苦労もあった。その一つが、提供したい医療のレベルと患者のニーズとのギャップをどう埋めるか、という点だった。

当時は、自分の口の中の状況にあまり関心がなく、その場しのぎの対症療法的な治療を希望する患者が比較的、多かった。望月院長が提供したい口腔内の健康維持に必要な原因除去と予防による長期安定した口腔内環境の維持の重要性と、患者がイメージする医療との間に大きなギャップがあったのだ。「歯科医療の多様化の影響もありました。長年に渡る多くの歯科関係者の多大な努力のおかげで、治療法も多種多様になり、以前では治せなかったものが治せるようになったり、生体に親和性の高い材料を用いることができるようになったりと選択肢が多くなっています。これらすべてを患者さんに説明し、理解していただく



美しく整えられたチェア回り

ことはとても難しいことでした」

どうしたら患者に理解してもらえるか、試行錯誤を繰り返した。その努力の結果の一つが、ホームページや患者向けオリジナルリーフレットを通じての詳細な情報提供だ。

望月院長は、開業当初の経験から限られた時間の中で、できるだけ早期に問題解決策を提供し、納得して治療を受けてもらえるように歯科医療の内容をオープンにすることが重要と考えた。そのためには、患者に歯科医療について知ってもらい、自身の病気の原因を理解し、幅広い選択肢が存在する中でどの方法を選択するかを決断するための情報提供が重要だ。

そこで、少しでも多くわかりやすく発信するために、スタッフたちとどのような媒体が必要かを何回も話し合った。そして、患者の目線に立つことから生まれたのが、工夫をこらしたホームページやリーフレットだ。イラストや図を多用したホームページやリーフレットの治療解説は、歯科医療の知識がなくても分かりやすい。現在、リーフレットもキャビネットの棚いっぱいになるほど、種類が増えたが、現在も改訂は続き、継続して作製中だ。

設備と内観を徹底し、 安心できる歯科医院を実現

同クリニックでは、開業にあたり、歯科医院のコンセプトを、「一生を見据えた安心と安全の医療を提供し、一般診療から

INSIDE REPORT

望月デンタルクリニック



マイクロスコープがある手術室も兼ねた特別診療室



マイクロスコープ



顎機能診査(CADIAX)



消毒室の「ミーレ ジェットウォッシャー」

高度先進医療まで幅広く行えるクリニック」に据えた。そして、そのための工夫と気配りを院内に徹底している。

「患者さんのために、治療効果が高いと判断した器械は積極的に導入しました。また、患者さんが想像しがちな歯科医院に対する怖くて暗い雰囲気を変え、治療や予防に少しでも精神的に前向きになっていただけるような、リラックスできる空間づくりを心がけました」

その想いは、歯科医院に一步、足を踏み入れたときから感じることができる。たとえば、待合室の心地よさだ。

「歯科医院では毎日、小手術を行っているのと同じような状態です。そのため、どうしても時間通りに予約の患者さんの治療を行えないこともあります。待合室で待っていただくことも生じてしまうため、予定より長い時間、座っていても苦痛にならないように座り心地のいい椅子を選び、落ち着けるインテリアを考えました」

消毒機器に「ミーレ ジェットウォッシャー」を導入したのも、安心できる歯科医院を考えてのことだ。

「歯科医院のもっとも重要な点は消毒であると考えています。当クリニックのコンセプトは安心安全です。そのコンセプトに沿って、目には見えなくても安全なものを提供したかった。また、自分たちが用いている器材を大切に、スタッフのケガも予防したいという気持ちもありました。さらに、限られた診療時間にできるだけ患者

さんに質の高い医療を提供するためには、機械化できるところは機器に任せ、診療に集中する環境を作ることが重要とも考えたのです」

トータルの診療精度を高めるために、一般的な検査に加え、顎機能診査(CADIAX)、CT撮影データは、シミュレーションソフトウェアを用いて診断した後、マイクロスコープを使用し、治療を行っている。

患者やスタッフとのコミュニケーションを重視し、さらに分かりやすい治療を目指す

初診時は、60分もの時間をかけて患者とのコミュニケーションをとっている。そこでも説明を深めるツールとして生きているのが、オリジナルのリーフレットだ。

「口の中はカリエス、ペリオ、不正咬合が複雑に絡み合う多因子疾患であるため非常にわかりにくい状態です。患者さんの目線に立つと、限られた時間の中で医療側から話を聞くだけでなく、後で見返せる資料があれば、より理解は深まります。そのためにも患者さんにとって必要な資料を多数用意していますし、適宜、渡すようにしているのです」

最近では、これまでのツールに加えて、マイクロスコープと録画



マイクروسコープで撮影した動画を使用し患者へ説明



患者に渡す説明用リーフレット。30種類以上ある

システムによる動画を見もらうことで、患者と患部のイメージを視覚的に共有しやすくなった。そのおかげで、患者の理解度が飛躍的に向上しているのを実感していると望月院長は話す。

また、スタッフ間での情報共有と医療のレベルアップも重視している。そのために設けているのが、月1回の半日ミーティングだ。

「医院の総合力を高め、コンセプトの共有化ができていくか、常に確認しています。半日をあてているのは、日々の臨床で忙しいため、きちんと時間を作って各個人の目標に合わせ、それを補う時間が必要と考えているからです。各担当分野ごとに実習を中心に行っています」

開業から8年経ち、歯科医院としての充実期に入ろうとしている。これからは、どのように発展させていこうと考えているのだろうか。

「日本はハード面が発展してきていますが、医院経営上、短時間で多くの患者さんを診る体制から脱却できていません。世界的に見ても、安全かつ高度な医療が広く提供しにくくなっているのではないのでしょうか。その状況を踏まえ、患者さんに口腔内の健康維持が生活の質の向上に直結することを伝え続け、もう少し

時間をかけて治療を行いたい。また、これからも安全で成功率の高い治療技術の習得と研鑽を重ね、常に最善を尽くし、患者さんの人生と共にいつも側にいて何かあったときにすぐ対応できる幅の広い治療体制を整えたいとも思っています。とくにマイクروسコープを用いることは、盲目的、かつ経験重視の治療から視覚的な治療を行うことが可能になります。更なる低侵襲な歯科医療を実現させ、健康を維持し続けられるメンテナンスシステムの構築をこれからも追及していきたいです」



望月院長とスタッフの皆さん

Profile

望月 一彦 先生

●1996年 松本歯科大学卒業 ●1997～2004年、一般開業医に勤務 ●2005年 望月デンタルクリニック開院
所属学会 / ●日本臨床歯周学会 ●アメリカ歯周病学会 ●日本口腔インプラント学会 ●OJ正会員
●日本顕微鏡歯科学会認定医 ●AMED所属 ●日本歯内療法学会 ●日本MEAW研究会 ●日本矯正歯科学会

望月デンタルクリニック 住所:長野県松本市両島1-13 TEL:0263-24-8148 HP:<http://www.m-dental.jp/>

THE FRONT LINE

福田歯科医院



風が直接、当たらないように工夫された玄関



旧歯科医院の約2.5倍の広さを持つ新歯科医院



移動可能な椅子を置いた受付と待合室

小児予防歯科を重視し、 世界標準レベルの ファミリーデンティストを目指して 移転新築

福田歯科医院 院長 福田 健二 先生
副院長 福田 幹久 先生

「C&C」11号で訪問した北海道函館市の「福田歯科医院」が移転新築。予防歯科のさらなる普及と最新の診療が提供できる環境を整えた。長男の副院長と力を合わせ、地域医療のさらなる向上を目指している。



福田 健二 院長



福田 幹久 副院長

新歯科医院の見取り図



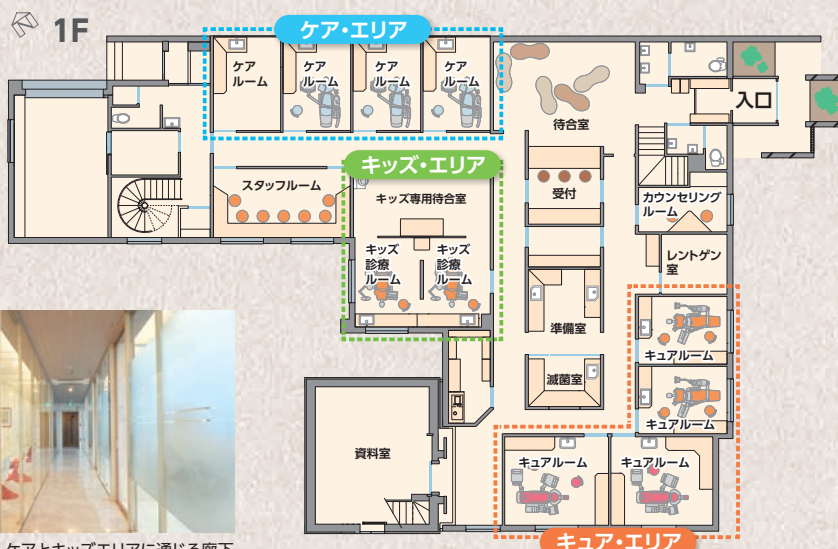
移転前の旧歯科医院



中待合にも使えるスタッフルーム



ケアとキッズエリアに通じる廊下



2.5倍の広さを持つ新歯科医院を 副院長とともに医療の発信基地に

「C&C」編集部が福田歯科医院を訪問したのは、2006年。1992年の開院時から詳細なデータを蓄積し、治療経過を綿密に分析することで、予防歯科に対する総合力を高めていた。それから7年、歯科医院の目の前に新たに土地を確保し、歯科医院を新築したと聞き、さっそくかががてみた。

道路を挟んで、新旧の歯科医院は向かい合わせに建つ。白の外観に赤いロゴが美しい建物のイメージはそのままだ、新歯科医院の広さは旧歯科医院の約2.5倍だ。

「以前と大きく違うのは、キュアとケアのエリアを明確に分けたことです。チェアの数もケアは以前と同じですが、キュアは2台から4台に増やし、全チェアを個室化しました。カウンセリングルーム

や研修室、お母さんの診療も可能な小児歯科専用スペースを新たに設け、医療施設であるだけでなく、医療情報の発信基地との役割も加えたのです」

福田健二院長は、以前うかがったときと変わらない穏やかな笑顔で新歯科医院の特徴を教えてくださいました。

じつは、もう一つ、福田歯科医院には大きな変化があった。長男の幹久先生が2011年10月から診療スタッフに加わったのだ。父に憧れて歯科医師になったという幹久副院長は、歯科大学への入学を機に函館を離れ、研修医を経て戻るまでの間も、帰省の際や電話等の機会を見つけては福田院長に教を請うてきた。父と同じ学会やセミナーに参加することも度々だった。「歯周病を専門に選んだのも、父と一緒に診療したかったからです。診療コンセプトが一致していますし、経験豊富な父からは学ぶことがたくさんあります。移転新築の設計もよりよい診療環境にしようと二人でアイデアを出し合いました」(幹久副院長)



キッズエリアの中待合室



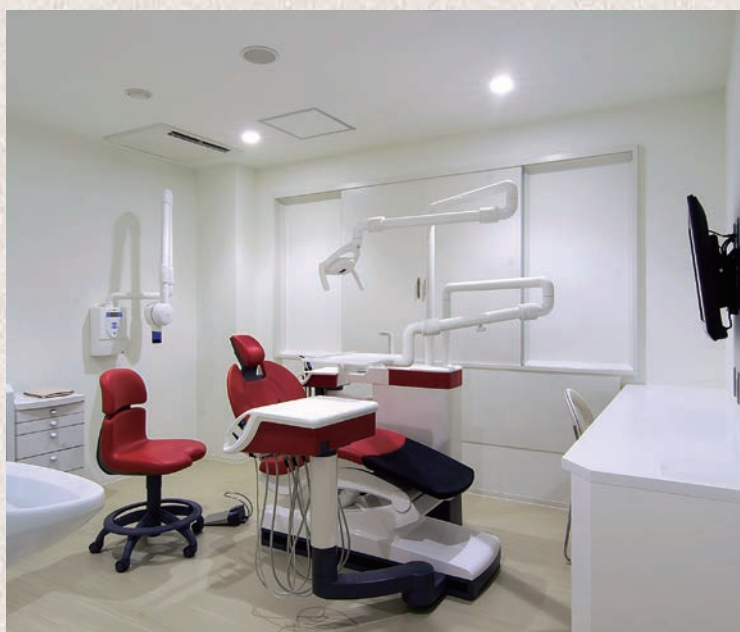
キッズエリアの診療室

THE FRONT LINE

福田歯科医院



ケアエリアの診療室



赤いチェアが印象的なケアエリアの個室



母子向けのパンフレット



毎年、実施している詳細な患者アンケート。結果を基に改善を重ねている

カリエスフリーの母子を育てる「歯っぴーキッズエリア」

福田院長と幹久副院長の工夫は院内のそこそこに見られる。まず二人が力を入れたのは「歯っぴーキッズエリア」と名づけた小児歯科専用のスペースだ。待合室からケアエリアのドアを開けると、左側にカラフルなデザインの本棚やプレイマット、椅子が並ぶ小児歯科専用の中待合室がある。パーティションの奥は、小児歯科専用の2台のチェアだ。小児予防歯科衛生士も2名、常駐している。ここでは、子どもが大人と違う独立したエリアで診療やメンテナンスが受けられるだけでなく、母親も子どもと一緒に診療を受けることが可能だ。「究極の予防歯科は、治療の必要がないカリエスフリーの歯を育てることです。そのためには乳幼児期、さらには妊娠中から予防歯科の大切さを伝えていくことが欠かせません。子どもの歯を守る意識が高まれば、自然とお母さんも自分の歯に関心を持ちますし、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんにも歯科衛生の大切さが伝わっていく。私たちは、子どもをきっかけに家族全員の歯を守るファミリーデンティストになりたい。そのための場の一つが、歯っぴーキッズエリアなのです」(福田院長)

最新機器の導入と滅菌専用室の完備で最先端医療にも対応

もう一つ、力を入れたのは、院内設備の充実だ。患者をスムーズに予防歯科に移行するためには、的確な治療があってこそだ。福田歯科医院では、旧歯科医院時代から、長年、積み重ねてきたデータをエビデンスに質の高い治療に取り組んでいるが、スペースの制限があり、どうしても医療環境面で歯がゆい部分があった。「現在、重要な治療の選択肢の一つとなっているインプラントや再生療法に適した環境を考えると、ワールドスタンダードな設備を整える必要がありました。そこで、十分な広さのレントゲン室を確保し、パノラマCT、デジタルレントゲンを設置したのです」(福田院長)手術室を完備し、セレックも導入。そして、それらの最新設備にも増して目をひくのが、滅菌・消毒環境の徹底だ。キアスペースのほぼ中央に自動ドアで開閉する専用の滅菌・消毒室を設置。専任スタッフ以外は原則として入室できない。担当を明確にしたルールにのっとり、滅菌・消毒作業は進められる。「一方で、滅菌された機器をスタッフの誰もが取りやすくなければ診療のスピードが鈍ってしまいます。そこで、看護師だった妻



担当者しか入れない滅菌室



滅菌室と通じる廊下の保管棚



セミナーが開ける研修室

のアイデアも採り入れ、滅菌・消毒室と廊下の両側から開くことができる扉付きの棚を設け、滅菌済みの機器を保管するようにしたのです。そうすれば、スタッフは廊下側から機器を持ち出せますし、滅菌・消毒室への影響を最小限にできます」(福田院長)

設備の充実に加え、スタッフや患者の動線も考えて設計できたのは、旧歯科医院での長年の診療経験があったから。院内を見せていただくと、それがよく分かる構造になっている。

地域歯科医療の拠点としての役割も果たす

新しいステージを迎えた福田歯科医院では、新歯科医院に函館市における歯科医療のキーステーション的役割も持たせようと考えている。子どもから大人へ歯科衛生の大切さを広げようという狙いも持つ「歯っぴーキッズエリア」の考え方を、より広く、地域にも伝えようというのだ。

「そのために、プロジェクターを設置した研修室も設けました。研修室には簡易的なカフェコーナーもあります。歯科に関するセミナーだけでなく、カリエスフリーの子どもを育てるための子育てサロンのような場所としても使いたいと考えているんです」

福田歯科医院と患者の絆はこれまでも強かった。昨年11月のオープン直前には、患者向けの内覧会を企画。多くの人々が訪れ、「歯っぴーキッズエリア」や車椅子でも入れる広さがあるバリアフリーの洗面所などはとくに好評だったという。

「開院時から集積してきた約9000名のカルテの保管場所も見

ていただいたのですが、その場所に驚かれる患者さんが多かったですよ」と、福田院長は笑う。それもそのはず、カルテの保管場所が「土蔵」だったからだ。

新歯科医院の場所には、過去に質店があった。土地を譲る条件が持ち主の「土蔵だけは残して欲しい」という希望だった。そこで、福田歯科医院では土蔵を組み入れる形で建物を設計。土蔵を大切なカルテの保管場所にしたのだ。

福田歯科医院では、初診の患者に一般的な歯科検査やレントゲンに加え、唾液検査も行い、口腔全体の状況を把握する。治療の完了後も歯科衛生士による定期的なメンテナンスで患者の口の健康を守っていく。そうした綿密な治療とケアができるのも、膨大なカルテの積み重ねと分析があるからだ。

「実際にカルテの棚を見ていただいたことで、患者さんの信頼感が増したような気がします。これからも、歯科を通して患者さんの健康を一生に渡って守っていく。歯科医師としての務めを果たしていきたいと思います」(福田院長)



福田院長を挟んで幹久副院長と奥様、スタッフのみなさん

Profile

- 福田 健二 先生** ●1977年 日本大学歯学部卒業。東京医科歯科大学歯学部第二口腔科学講座入局 ●1980年 福田歯科医院開院
●2005年 院内を全面改築 2012年11月 歯科医院を移転新築 ●日本口腔外科学会会員 ●日本口腔衛生学会会員
●日吉歯科診療所オーラルフィジシャン育成セミナー参加 ●日本歯周病学会会員 ●日本臨床歯周病学会会員
- 福田 幹久 先生** ●2007年 日本大学歯学部卒業。東京医科歯科大学歯学部付属病院臨床研修医 ●2008年 東京医科歯科大学歯科臨床研修医
修了 ●2009年 東京医科歯科大学歯学部歯周病学分野専攻レジデント修了 ●2010年、2011年、オーラルフィジシャン海外研
修セミナー参加。PHIJ、PHIフェローシッププログラム終了。マイケル・マクガイヤ先生に師事。米国クレイトン大学研修セミナー受講
●2011年 福田歯科医院に勤務 ●日本歯周病学会会員 ●日本臨床歯周病学会会員 ●米国歯周病学会(AAP)会員

福田歯科医院

住所:北海道函館市東雲町20-12 TEL:0138-26-8148 HP:<http://www.fukuda-dc8148.com/>

DOCTOR'S TALK

シティデンタルオフィス



頭部全体が撮影できる医科用CT



クリーンルーム化された専用手術室

医科用CTやクリーンルームの 手術室を設置。 安心安全を考えた診療を追求する

シティデンタルオフィス 院長 山本 英貴 先生

「シティデンタルオフィス」がオープンしたのは、昨年11月。
医科用CTなどを備えた駅前歯科として順調なスタートを切った。
新規開業にあたっての診療方針や今後の展開についてうかがってみた。



山本 英貴 院長



すっきりとした白が基調の受付



大きなソファが置かれた待合室

立地と広さにこだわり、 開業場所を探す

「シティデンタルオフィス」は、東京のベッドタウンとして人気が高い東急田園都市線高津駅前のオフィスビル3階にある。勤務医として経験を積んできた山本英貴院長が、開業場所として考えた条件は、駅前であること、広さが確保できることだった。「駅前には患者さんに認知してもらいやすく、通院しやすい絶好の立地です。歯科用CTを選び、チェア1台用の個室を手術室としても使えるようにすれば、スペースはもっと小さくてよかったでしょう。でも、私は医科用CTを導入し、医科並みの広さと設備を持つ手術室を確保したかったのです」

自宅から歩いて行ける範囲の歯科医院ということで通院する患者も多い。地元密着型の歯科医院として患者の利便性を考えれば、補綴から歯周病、インプラントまで、可能な限り、自院で治療ができる環境にしたいと、山本院長は考えたのだ。「手術室は約20㎡の広さを確保できました。じつは予定より広い場所を借りることができたので、受付と待合室もゆったりした空間になりました。予想外の展開でしたが、患者さんの快適性は増したので、結果的にはよかったです」と笑う。

全身的な医療管理を考え、 医科用CTと手術室を完備

山本院長が広さにこだわった理由は、患者の全身的な管理を万全の体制で行いたいと考えたからだ。超高齢社会を迎えた今、歯科医師も全身的な健康を考えて治療することが必要な時代だ。

歯周病は、食習慣や生活習慣との関係も深い。患者によっては、高血圧や糖尿病などの薬を常用していることも多い。服用を知らずに治療や手術をした結果、トラブルが起こらないとも限らない。

山本院長が全身的管理を重視するのは、歯科補綴学と歯科麻酔学を専門に学んできたことが大きく関係している。「歯科大学卒業後は、インプラント治療を中心に補綴、口腔外科を学びました。さらに歯科大学在学中から歯科麻酔にも興味を持つようになり、5年前からは歯科麻酔も学び始めました。それらの知識を通して、全身管理のできる歯科医院を作りたいと考えたのです」

その考えを実現化するために、医科用CTと医科に匹敵する広さと設備の手術室を備えることにした。医科用CTは、頭頸部全体を撮影することが可能なため、歯科用CTでは得られない多くの情報を得ることができる。また、手術室もゆったりとしたスペースに、大型の无影灯や生体モニターなどの機器を完備した。

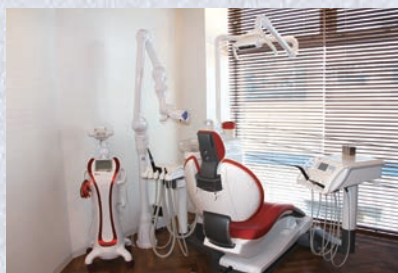
「感染症への注意も必要です。そこで、手術室は、陽圧換気システムと、超高性能エアフィルターを備えた空調設備を持つクリーンルームにしました。滅菌・消毒も重要ですから、ディスポーザブル以外の使用済み機材は高温洗浄を行い、除菌した後、金属製品はオートクレーブクラスBで完全滅菌。プラスチックや紙製品はガス滅菌器で完全滅菌しています」

予想以上に多い自費患者に驚き、 保険患者とのバランスを模索中

開業から5ヶ月あまり、発展途中のシティデンタルオフィスだが、



3台のチェアがある診療室



ゆとりのあるチェアまわり



両開きが可能なキャビネットはオリジナル

DOCTOR'S TALK

シティデンタルオフィス



自動練和器などを置いた準備台



消毒機器を備えた準備室



木製洗面台を備えたトイレタリーエリア

山本院長も予想していなかった事態が起きている。

「患者さんは30～50代の女性が中心ですが、自費の患者さんが予想より多く、驚いています。ホームページに自費診療の金額を明記していることが関係しているのかもしれない」

医療施設を探すとき、最近は、患者の多くがホームページを検索する。利便性や設備の充実、費用などをホームページで確認し、通院してみたところ、山本院長のていねいな診療から自然と自費診療への流れができていったのかもしれない。

「開業時からシリコン印象用の自動練和器を用意しているのですが、当分は出番がないだろうと思っていたところ、フル稼働しています。患者さんに『かぶせものはどうしますか?』とかがうと、迷わず『白い歯で』とおっしゃる。自分が予想していた以上に審美に対する意識が高い地域だったのかもしれない」

うれしい悲鳴とも言えるが、山本院長によくかろうと、そう簡単ではないらしい。歯科医院の経営は、保険診療という土台があってこそ。その上で自費診療が増えるのが理想だ。まったくの新規開業の歯科医院では、まずは保険診療の患者を確保することが欠かせない。

「関西や関東の複数の歯科医院で勤務医として働いてきましたが、院長という立場になってみると初めて知ることもあり、勉強の毎日です」

患者目線の治療を大切に 医科との連携にもチャレンジ

山本院長が目指すのは、病院らしくない歯科医院。そのために患者に緊張感を与えないことや患者との目線を大切にしている。患者に話しかけるときは、必ず患者の横に行き、後ろから話しかけることのないようにしているという。

また、治療中の患者の快適性を考え、診療室内の灯りには白熱タイプの照明を使用。天井の高さに段差をつけ、間接照明で光が直接、目に入らない配慮もしている。

「開業直後の慌たしさもようやく一段落しました。医科用CTは睡眠時無呼吸症候群の治療にも役立ちますし、これからは医科の先生とも連携したいと考えています。患者さんの健康を考えたアイデアにいろいろチャレンジしていきたいですね」



山本院長とスタッフの皆さん

Profile

山本 英貴 先生

●2003年 奥羽大学歯学部卒業 ●2007年 大阪大学大学院歯学研究科卒業 ●2007～2009年 大阪大学歯学部附属病院研究生 ●2009年～現在 昭和大学歯学部歯科麻酔科研究生 ●2012年11月 京都、奈良、兵庫、東京の歯科医院勤務を経て、シティデンタルオフィス開院 ●日本口腔インプラント学会専門医 ●京都インプラント研究所所属 ●日本補綴歯科学会会員 ●日本歯科麻酔学会会員

シティデンタルオフィス 住所:神奈川県川崎市高津区溝口3-7-1 フロントビル3階 TEL:044-455-7744
HP:<http://www.citydentaloffice.net/>



SASAKI Care & Communication Vol.30 May 2013 お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。